平成年２３度　学校経営計画に対する中間評価報告

石川県立羽咋工業高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）
1　学力向上を図り、資格取得を奨励するとともに企業が求める能力を育成し、生徒の進路志望を実現させる。	①　研究授業の事前・事後の教科研修会や研究協議会、互観授業を充実させ、各教科と学科を核にして学校全体で授業改善に取り組む。	各教科と学科で授業改善についての取組を行った Ａ　各学期に３回以上取り組んだ Ｂ　各学期に２回取り組んだ Ｃ　各学期に１回取り組んだ Ｄ　全く取り組む事ができなかった	教職員対象に ７月にアンケート調査結果 Ａ：　８％　Ｂ：６２％ Ｃ：２７％　Ｄ：　３％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて７０％	教職員対象アンケート結果は、Ａ・Ｂ合わせて７０％となり、中間評価では判定基準のボーダー値となった。しかしながら、１学期中に研究授業が５回実施され、昨年度の中間評価の５０％より大きく改善し、最終評価に比べても３ポイント改善している。昨年度から進めている意識改革が少しずつ進んでいると判断できる。現在、まだ３０％の先生方はあまり授業改善に取り組んでいない状況にあるため、今後も２学期に実施する研究授業と互観授業でさらに授業改善を進めて行きたい。
	②　学力向上を図るために授業の課題やレポートの内容・出題を工夫するとともに資格取得も関連付けて学習習慣を身に付けさせる。	課題・レポート・資格取得など授業外の学習活動について Ａ　十分取り組むことができた Ｂ　おおむね取り組むことができた Ｃ　あまり取り組むことができなかった Ｄ　全く取り組むことができなかった	生徒対象に ７月にアンケート調査結果 Ａ：３８％　Ｂ：４６％ Ｃ：１４％　Ｄ：　２％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて８４％	生徒対象のアンケート結果は、Ａ・Ｂ合わせて８４％となり、中間評価では判定基準をクリアできた。授業の課題やレポートを積極的に課したり、工業科の資格取得に向けた補習との連携により昨年同期より２ポイント改善できた。後期も授業および資格取得の柱を中心に、家庭学習時間のさらなる増加により学習習慣を身に付けさせ、学力向上につなげるための努力をしていきたい。
	③　定期考査１週間前より、部活動での学習会や勉強合宿、個別面談・個別指導等を実施させ、学習意欲の向上と時間確保を図る。	部学習会や個別面談等により、学習効果が上がったと感じる生徒が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上８０％未満 Ｃ　６０％以上７０％未満 Ｄ　６０％未満	各部対象に ７月に調査結果 評価：Ｂ	定期考査前に部活動で部学習会や個別面談をされた生徒のうち、７８％の生徒が学習効果があがっていると回答している。現時点での評価はＢであり、概ね良好である。本校生徒は素直であり、教師・部顧問がある程度「学習させる環境」を整えることが、成績の向上に必要であると感じた。今後も、より学習効果が上がる工夫や手立てを考え、残りの２２％の生徒にも有意義と感じさせたい。
	④　図書室の利用を促し、調べ学習や読書習慣を身に付けさせる。	２学期末での図書室の延べ利用者数が Ａ 4,000 人以上　（１学期末 1,500 人以上） Ｂ 3,500 人～ 3,999 人　（１学期末 1,400 人～　） Ｃ 3,200 人～ 3,499 人　（１学期末 1,200 人～　） Ｄ 3,200 人未満　（１学期末 1,200 人未満）	１学期末での延べ利用者数 2，010 人 評価：Ａ	昨年を大きく上回り、１学期末の目標数を達成することができた。図書室内の配置換え・本の整理・廊下文庫・図書便りの発行にと、活発に委員会が活動した結果、生徒が本や読書に少しずつではあるが興味を持ち始めたといえる。また、６月に入り、３年生の放課後利用が増えたことも要因の一つといえる。今後は８月に入荷予定の新着図書の紹介や「ふみの日の読書」など年間を通した活動を考えていきたい。
	⑤　希望進路の実現に対する資格取得の説明機会を増やすとともに、課外補習を充実させ資格試験の合格者数を増加させる。	２学期末での資格試験延べ合格者数が学校全体で Ａ　720 人以上 Ｂ　540 人以上　720 人未満 Ｃ　360 人以上　540 人未満 Ｄ　360 人未満	２学期末の資格試験受験結果集計による	
	⑥　高度な資格の内容紹介や受験指導を行うとともに、ジュニアマイスターの点数区分を明示し、多くの資格に挑戦する意識付けを行う。	全校のジュニアマイスター認定者数が Ａ　３０人以上 Ｂ　２５人～２９人 Ｃ　２０人～２４人 Ｄ　１９人以下	資格取得者数結果 昨年度　７月　１３名　最終　３５名 今年度　７月　１１名により 評価：Ａ	昨年度の前期は、ゴールド５名、シルバー８名の合計１３名であった。今年度の前期は、ゴールド７名、シルバー４名の合計１１名である。現在のところ合計数で昨年度より２名減の状況であるが、２、３学期は資格・検定試験も１学期以上に多くあり、資格取得者数の増加も見込める。最終の評価においては３０人以上を確保しＡ評価を目指す。
	⑦　進路説明会やＬＨなどで進路に向けた情報提供を行い、また、インターンシップを通して適切な進路選択を促進させる。	進路説明会・LH などによる説明や配布した進路情報により、意識が高まった生徒の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上９０％未満 Ｃ　７０％以上８０％未満 Ｄ　７０％未満	生徒対象に ７月にアンケート調査結果 意識が高まった生徒８７％ 評価：Ｂ	意識が高まった割合は８７％であり、判定基準をクリアしている。全体的に、進路についての意識は高く持っているが、２年生の割合が若干低い。今の社会情勢とホーム担任による指導や学校新聞などによる進路の情報などにより、早い時期から進路を意識する様に、後期に向けて、１，２年生に対してさらに進路資料や説明会の充実を図り、より多くの生徒の意識を高めていきたい。 （ 学年別の合計：３年９６％、２年７９％、１年８６％）
	⑧　進路希望の達成のために指導の充実を図る。 ・基礎学力の定着を図り、試験対策を十分に行う。 ・外部講師による講演や面接指導、担任による個別面談を充実させる。	学力テストや面接指導等により、実力がついた割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上９０％未満 Ｃ　７０％以上８０％未満 Ｄ　７０％未満	３年生を対象に １２月にアンケート 調査結果	
		民間就職試験の第１回目試験での内定率が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上９０％未満 Ｃ　７０％以上８０％未満 Ｄ　７０％未満	３年生を対象に秋に調査	

学校関係者評価委員会の評価	・生徒アンケートでは課題やレポートといった生徒に課された学習はしっかりとやることはわかるが、自主的な学習への取組みが少ないという面もあるのではないか。 ・若者の新聞離れが叫ばれているので、生徒達に積極的に読むように指導をして欲しい。 ・資格取得は工業高校にとっては重要であり、その結果や成果を広く社会に公表していくことも大切である。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・生徒は課題が出されたときや定期考査前、検定試験前しか勉強しないといった問題に対して以前から取り組んできており、少しずつではあるが改善されてきているので今後も継続して学習時間増加と学力向上に向けて取り組んでいく。 ・図書室で閲覧可能な新聞が５部揃っており、種類的には適切であると考えているが、新聞が読みやすくなるような図書室の環境も整えていく。 ・ジュニアマイスター特別表彰も２年連続で受賞するなど、近年は生徒の資格取得に対する意欲が向上しているので好結果も期待され、積極的にその結果を公表していく。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）
２　部活動を活性化させ、人間性に富み、心身ともに健全で逞しい人づくりをめざす。	①　本校の運動部は、県高校総体・新人大会でベスト８以上、高体連表彰敢闘賞獲得を目指す。	ベスト８以上の運動部が Ａ　５０％以上（９部以上） Ｂ　４０％以上５０％未満（７～８部） Ｃ　３０％以上４０％未満（６部） Ｄ　３０％未満（５部）	６月実施の県総体結果 ベスト８以上　５部 Ａ評価（９部以上） に対する達成率 ５６％	６月実施の県総体ではベスト８以上の成績をおさめた部活動は５部である。Ａ評価（９部以上）に対する現時点での達成率は５６％である。敢闘賞獲得は県総体結果が対象であるため獲得は困難が予想されるが、新人大会では県総体ベスト８以上に入れなかった部も入賞を目指し、日々努力しており、県総体と合わせてベスト８以上が９部以上になるよう働きかけていきたい。
	②　文化部において、部の重複加入を奨励し、学校祭以外にも校内外での発表・展示・公開の機会をさらに増加させる。	学校祭以外で発表、展示、公開練習等の機会を持った回数が、 Ａ　７回以上 Ｂ　５～６回 Ｃ　３～４回 Ｄ　２回以下	各文化部対象に ７月に調査結果 ４回　１部 ２回　６部	調査結果は、昨年度の中間評価とほぼ同様な結果である。ほとんどの文化部は夏休みから２学期にかけて発表や展示の機会が増えることが予想される。今後、最終結果ではほとんどの部が５回以上を達成するため、昨年よりも多くの発表・展示活動がなされるよう働きかけていきたい。
	③　生徒会が中心となり、行事への参画意識を高め、自主的に参加する行事にする。	生徒会行事に満足していますか Ａ　たいへん満足した Ｂ　おおむね満足した Ｃ　あまり満足できなかった Ｄ　まったく満足できなかった	生徒対象に ７月にアンケート調査結果 Ａ　３６％　Ｂ　５２％ Ｃ　９％　Ｄ　３％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて８８％	１学期の生徒会行事は、校内陸上競技大会、壮行式、挨拶運動、１日１善運動などであった。結果、Ａ・Ｂ合わせて８８％で現時点では判定基準をクリアしている。生徒会が自主的に行事を運営し、手作りでしかもより良くしていきたいという気持ちが全校生徒に伝わっていたと感じる。 ２学期は生徒会行事が多く、特に生徒会最大行事の羽工祭において全校生徒が満足がいくよう工夫していきたい。
	④　精神的な悩みを持つ生徒に対して、学年、課が連携し組織的に支援する。	精神的な悩みを持つ生徒に対する職員の支援が Ａ　よく行われている Ｂ　おおむね行われている Ｃ　あまり行われていない Ｄ　まったく行われていない	教員対象に ７月にアンケート調査結果 Ａ　２２％　Ｂ　６４％ Ｃ　１４％　Ｄ　０％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて８６％	７月のアンケート調査結果は、Ａ・Ｂ合わせて８６％であり判定基準はクリアしている。１学期は、別室登校や不登校生徒がほとんどいなかったため、Ｃ　１４％という評価が出ていると考えられるが、校内支援委員会や学年会などで、職員間の情報交換を密にし、悩みを抱える生徒の早期発見・早期対応に心がけ、職員全体でしっかりとした支援が行われるようにしたい。

学校関係者評価委員会の評価	・運動部が今年度の高体連表彰敢闘賞を獲得できる見込はどれくらいか。 ・前期は不登校傾向の生徒がほとんどいないのは結構なことだが、精神的な悩みを持つ生徒がいた場合に学校としてどのように対応するかが重要である。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・３年生が４クラスあった平成１９年度までは敢闘賞を獲得していたが３クラスになってからは獲得を逸しており今年度も厳しい状況である。再度、獲得できるように指導方法を改善・工夫していく。 ・昨年度は不登校傾向の生徒は数名いたが、組織的な支援によって復帰できた例もあるので、今後も教職員の細かな生徒観察と連絡を密にして早期発見、早期対応に努めていく。

重　点　目　標	具　体　的　取　組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）
３　奉仕活動等を通じて地域社会との連携を深め、環境保全や社会貢献に対する意識を高める。	①　社会に貢献する大切さや必要性を認識するために、１日１善運動を校外にも推奨する。	１日１善運動について Ａ　毎日必ず実践している Ｂ　できるだけ実践している Ｃ　あまり実践していない Ｄ　全く実践していない	生徒対象に ７月にアンケート調査結果 Ａ　１５％　Ｂ　５９％ Ｃ　２２％　Ｄ　　４％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて７４％	生徒対象のアンケート結果は、Ａ・Ｂ合わせて７４％であり、現時点では判定基準をクリアしている。実際、生徒達は自ら考え、実践している場面をよく見かけるようになった。 この現状に満足せず、残りの２６％の生徒達が積極的にこの運動に参加するよう、２学期からも、生徒会と連携し取り組んでいきたい。
	②　社会生活を営む上で、ルールやマナーの必要性を説き、認識させる指導により、マナーと交通ルールを遵守する生徒を育てる。	自分自身の自転車乗車ルール（規則）について Ａ　ルールを守り安全に運転している Ｂ　ルールをある程度守り運転している Ｃ　ルールをあまり守らず運転している Ｄ　ルールを守らず運転している	生徒対象に ７月にアンケート調査結果 Ａ　２６％　Ｂ　６３％ Ｃ　　８％　Ｄ　　３％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて８９％	第１回目のアンケートではＡ・Ｂ合わせて８９％であり、昨年の最終結果（８１％）と比較すると生徒の交通ルールに対する意識が向上していることが伺える。学年別では３年生の交通ルール遵守意識がまだ低い。今後も自転車交通ルールを始め生活態度の意識を高く持てるよう全校集会、学年集会、ＬＨ等を通して注意を促し、全体で連携を図りながら、より一層組織的に取り組んでいきたい。
	③　Ｗｅｂページの更新を定期的に行って学校の活動状況を発信し、情報公開に努める。	ホームページを更新した回数が Ａ　２０回以上 Ｂ　１５回以上２０回未満 Ｃ　１０回以上１５回未満 Ｄ　１０回未満	各担当・各部対象に ７月に調査結果 更新回数：１５回 評価：Ｂ	１学期中の各課・科や部活動等のホームページ更新回数が１５回となり、昨年度の最終評価時における回数を上回り、判定基準をクリアすることができた。Ｗｅｂページの作成方法の簡略化と校内への働きかけの効果が出始め、少しずつではあるが、各担当の情報発信に対する意識が高揚した。２学期も情報発信手段としてのＷｅｂページ活用を心掛けて、学校全体でよりタイムリーで新しい情報伝達・情報公開に向けた働きかけを行っていきたい。
	④　環境保全についてはこれまでの取組を萎えさせることなく職員・生徒が理解を一層深め、特にゴミの分別等が正しくおこなわれているか評価することを試みる。	１５点以上の教室が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上８０％未満 Ｃ　６０％以上７０％未満 Ｄ　６０％未満	ＩＳＯ委員により ６月、１０月、２月に各教室を１週間調査し１日２０点満点で評価する。 平均点最高クラス：１９点 平均点最低クラス：１７点 全クラスが１５点以上 評価：Ａ	第１回目は６月１３日～１７日までの１週間を、「環境強化週間」と銘々したところ、思いがけない反響を生み、徐々に盛り上がり各クラスとも真剣に取り組み、最終日の平均は１９．６点で、予想以上の成果を上げることができた。 ２・３回目は、全クラス平均１８点以上を目指したい。 又、この取組を環境強化週間だけで終わることのないよう年間を通して取り組む。

学校関係者評価委員会の評価	・１日１善運動は一人では尻込みして行動しにくいので部活動単位で取組むことはたいへん結構なことだが、部に加入していない生徒の取組み状況はどうか。 ・多くの生徒は近年、声の大きさ、表情等で挨拶の仕方が良くなってきているので大変気持ちがよいのだが、自転車については危ない場面を見かけたことがあった。 ・ホームページはわかりやすくして、多くの新しい情報をどんどん発信して欲しい。 ・ゴミの分別も大切だが、無駄なゴミを出さないといった意識作りがより大切になってきている。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・ほぼ全員が部に加入しており、全校生徒が１日１善運動に取組んでいるので今後は部での活動をより活性化、習慣化させることで日常生活の中で自然に行動できるようにする。 ・交通ルールを遵守することは自分の命を守るだけでなく、加害者にもならないことを様々な機会において繰り返し注意し、守らせていく。 ・本年度はホームページの更新を大幅に増加させており、これからも情報を積極的に発信していくとともに、見やすくてわかりやすいものに改良していく。 ・無駄なゴミを出さない意識作りについてはそのために生徒一人ひとりがどんなことができるのかを生徒に考えさせることから始めていきたい。